

2016 年度
調査報告書

チャレンジデーの実施プロセス及び 社会的インパクトに関する調査研究



三重大学教育学部 教授 重松 良祐
身体教育医学研究所 研究所長 岡田 真平

Harvard T.H. Chan School of Public Health, Research Fellow 鎌田 真光

目次

1. 概要	-----	1
2. 調査の目的	-----	2
3. 調査の方法	-----	3
4. 調査結果	-----	6
1) 実地調査および討議の結果	-----	6
2) 参加率データの散布状況	-----	6
3) 記述統計量および参加率の差異	-----	8
4) 参加率向上のための改善案査	-----	36
5) まとめ	-----	37
付録－調査票	-----	38

1. 概要

概要

チャレンジデーの実施プロセス及び社会的インパクトに関する調査研究

チャレンジデー2016に参加した128自治体を対象に調査を実施(回収率100%)。
チャレンジデー当日の参加率アップと、スポーツによるまちづくりのポイントを以下にまとめました。

ポイント

(報告書該当ページ)



*P*_{lan}

計画を立てる

「目標参加率と目標達成のための具体的な計画はありますか？」

P. 8



*A*_{doption}

協力体制をつくる

「スポーツ関係者だけでなく、まち全体で取り組む体制は出来ていますか？」

P. 9



*I*_{mplementation}

周知・運営する

「広報媒体・グッズなどを効果的に活用していますか？」「幅広い層の参加を促す多様なプログラム構成ですか？」

P. 16



*R*_{each}

認知度(%)を確認する

「チャレンジデー実施は住民の何%に伝わっていますか？」

P. 26



*E*_{ffectiveness}

当日参加率(%)を確認する

「同じ人口規模で参加率の高い自治体はどんな取り組みをしていますか？」

P. 27



*M*_{aintenance}

継続につなげる

「住民のスポーツ実施率・運動習慣者の割合を把握していますか？」

P. 29